

2025年5月21日（水）農中総研Webセミナー

# トランプ2.0がもたらす中国と世界 食料貿易の構造転換

理事研究員

阮蔚 (Ruan Wei)

[wei@nochuri.co.jp](mailto:wei@nochuri.co.jp)

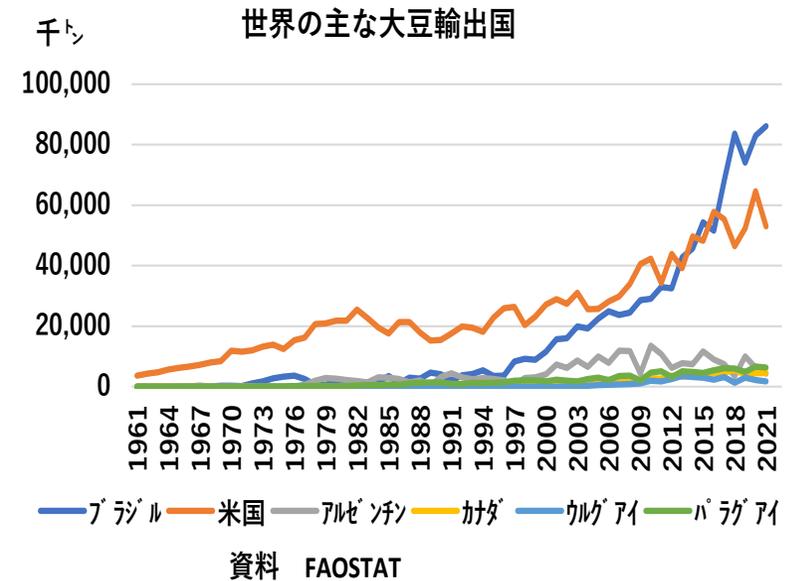
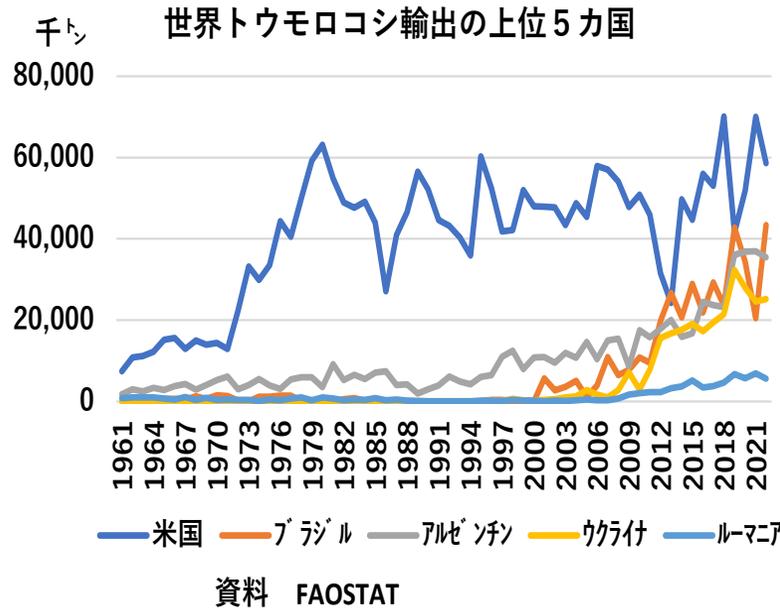
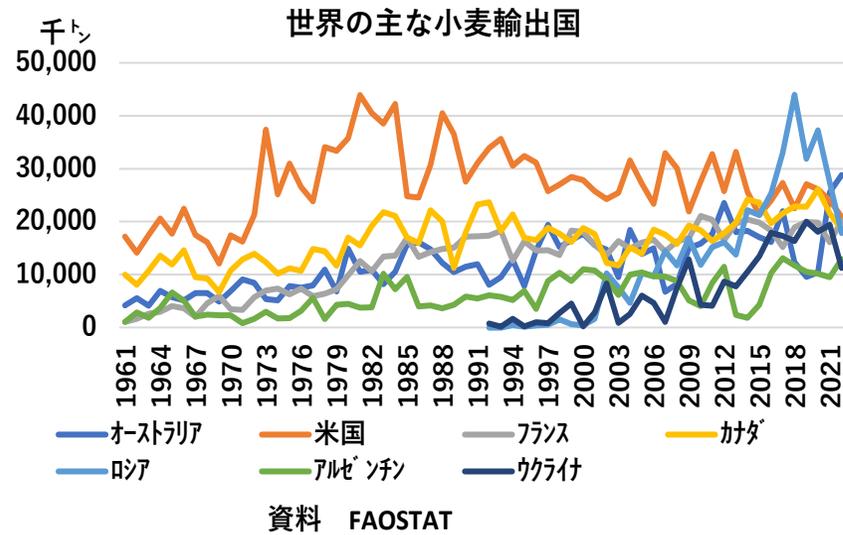
# ポイント

---

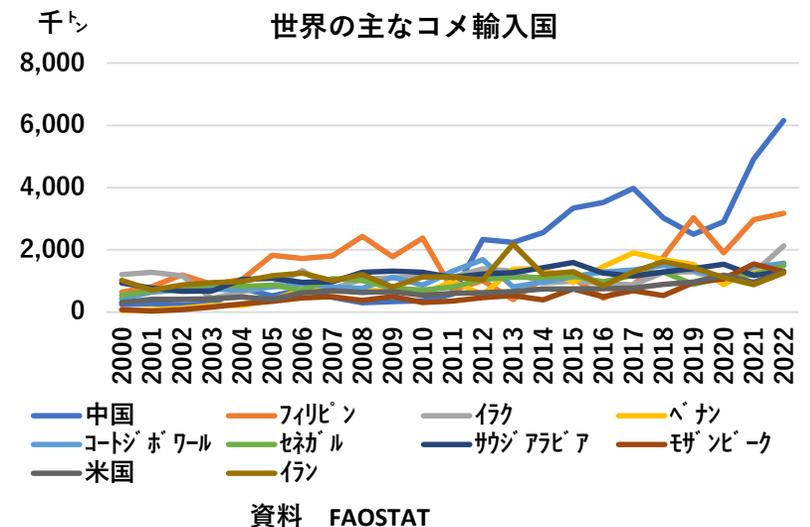
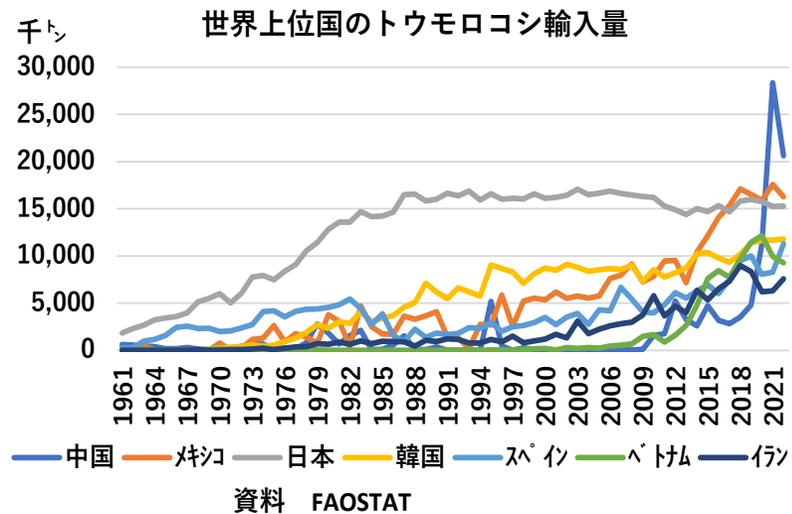
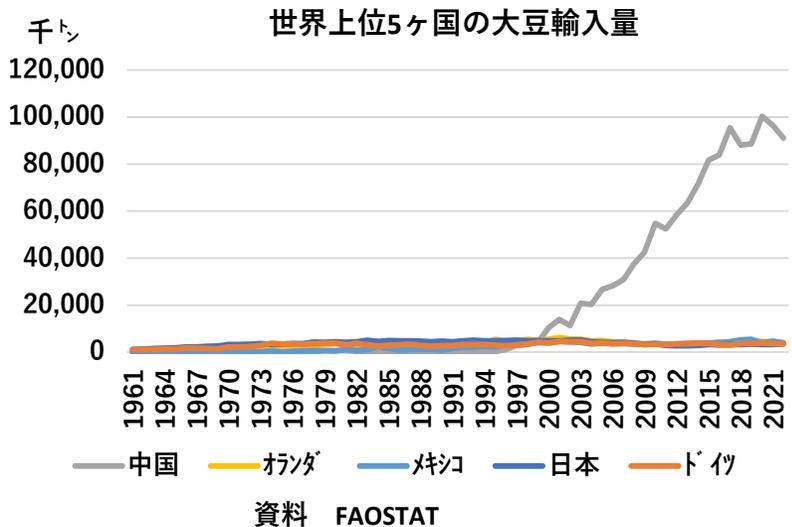
- 1、世界最大の食料輸出国と輸入国の関税戦争
- 2、「脱米国・入南米」—中国輸入先の多様化
- 3、中国の食料増産と飼料効率向上の対策

- 米国は世界最大の食料輸出国
- 20世紀に米国は小麦、トウモロコシと大豆において**圧倒的な世界一の輸出国**
  - 輸出世界シェア

小麦:3~4割    トウモロコシ:5~7割    大豆:7~9割

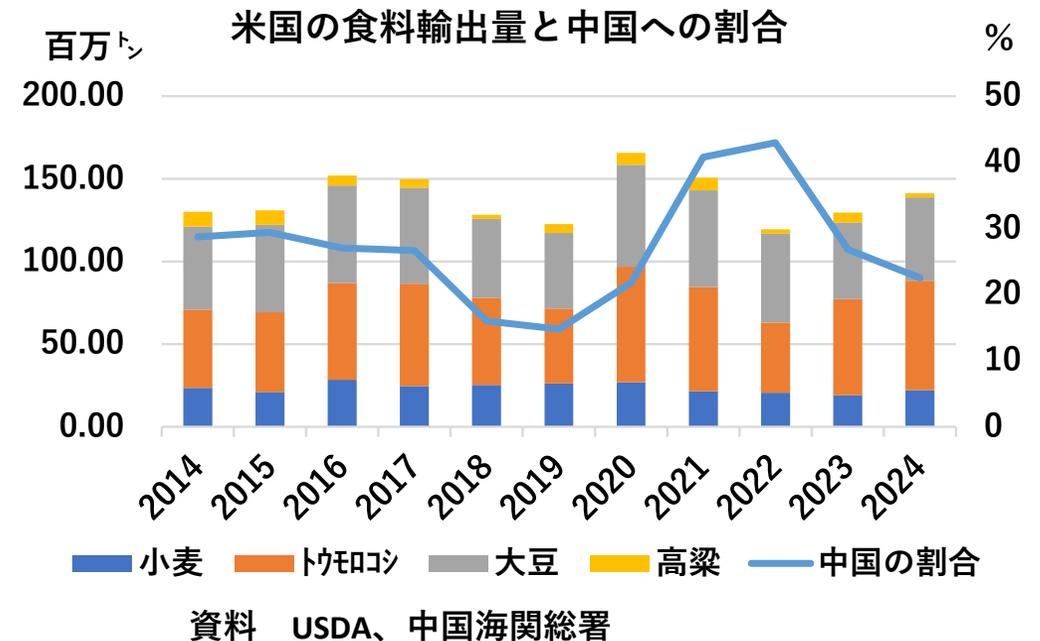
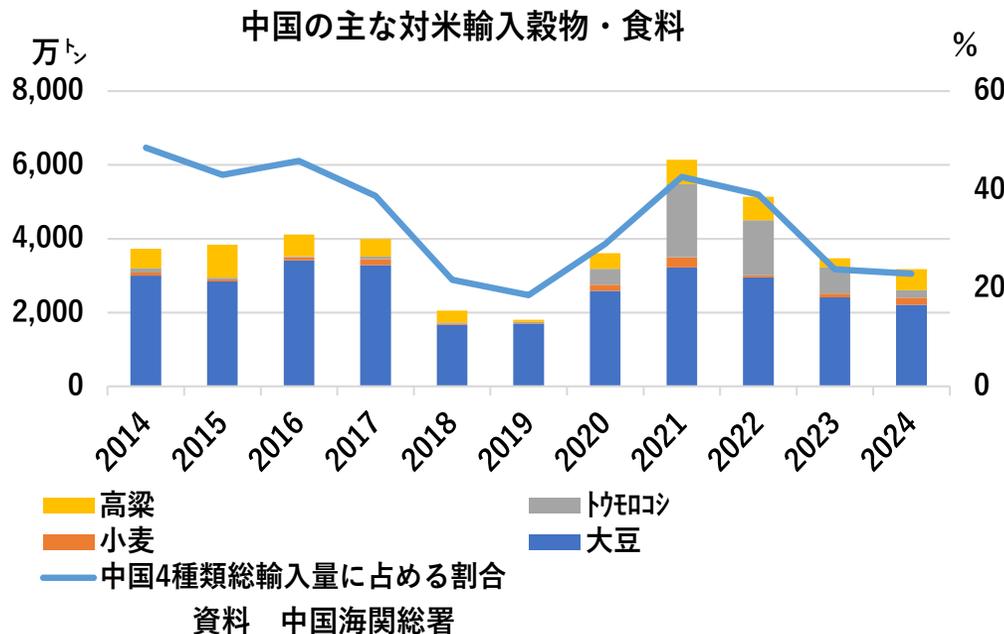


- ・ 中国は今世紀に入って食料輸入が急増 → **圧倒的な世界一の輸入国に**
- 2024年実績：大豆1億ト、トウモロコシ1377万ト、小麦1119万ト、大麦1422万ト、コメ621万ト
- 大豆：2000年以降、世界最大の輸入国であり、世界貿易量の約6割を占める
- トウモロコシ：2021～23年に世界最大の輸入国
- コメ：2012年以降、世界最大の輸入国（2019年除く）
- 小麦：2022年に世界最大の輸入国



## 食料貿易において米中は深い相互依存にあり、表と裏の関係

- 中国の米国からの輸入量 大豆、トウモロコシ、小麦と高粱の4 品目合計
  - 2014～17年に約4000万ト、21～22年5000～6000万トと
- 中国の4 品目における米国からの輸入量は**38.7%～48.5%**
- 米国の4品目における中国向け輸出量の割合
  - 2014～17年に**26.7～28.7%**、2021～22年に**40.8～42.9%**、2024年に**22.5%**



# 米国の大豆輸出は中国に深く依存

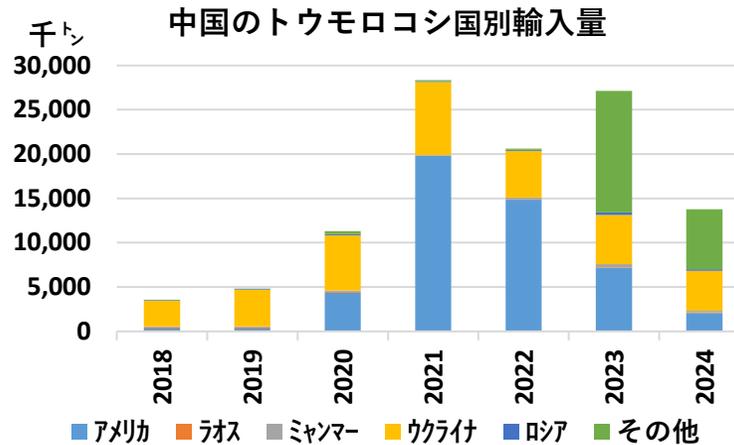
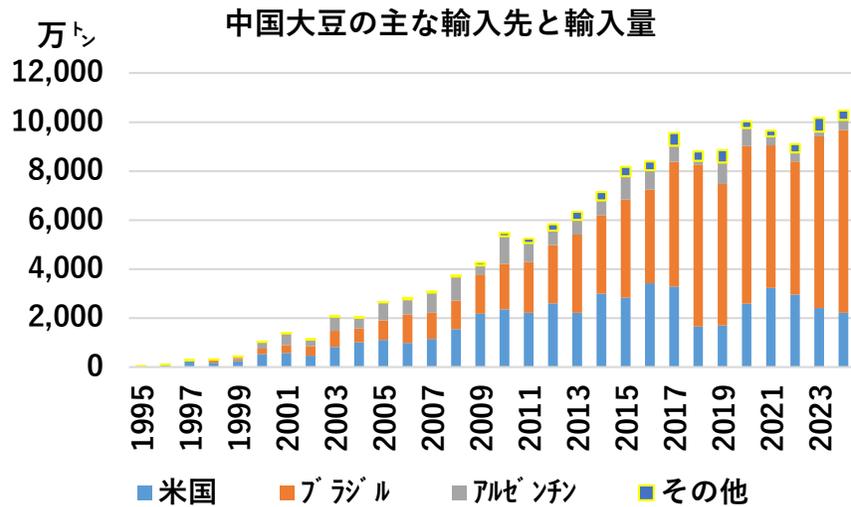
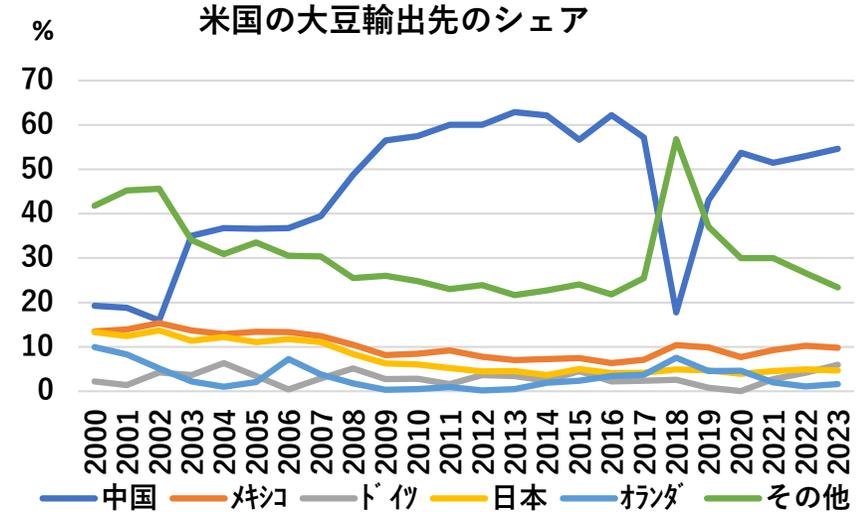
## ・ 米国大豆の中国への輸出货量

- 2009～2023年まで2000～3000万ト台（2018、19年を除く）

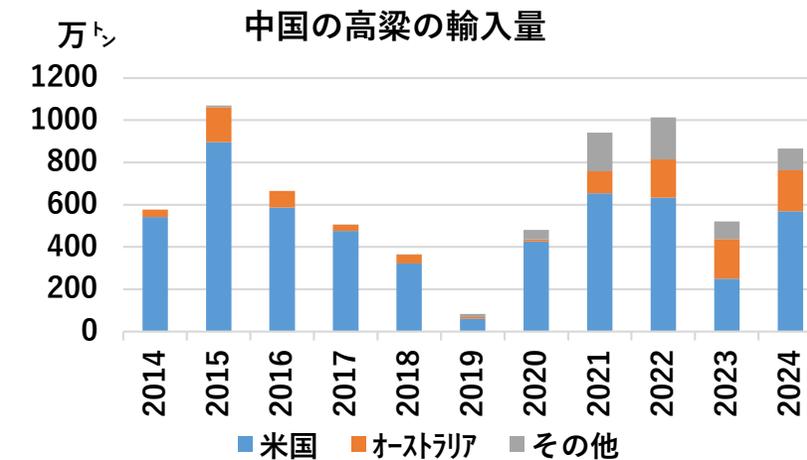
米国輸出货量の**43.1%～62.9%**を占める

・ 中国のトウモロコシの対米依存度は 2021～22年に7割

・ 高粱の対米輸入依存度はほとんどの年では6割～9割



資料 中国海関総署



資料 中国海関総署

資料 FAO、中国海関総署

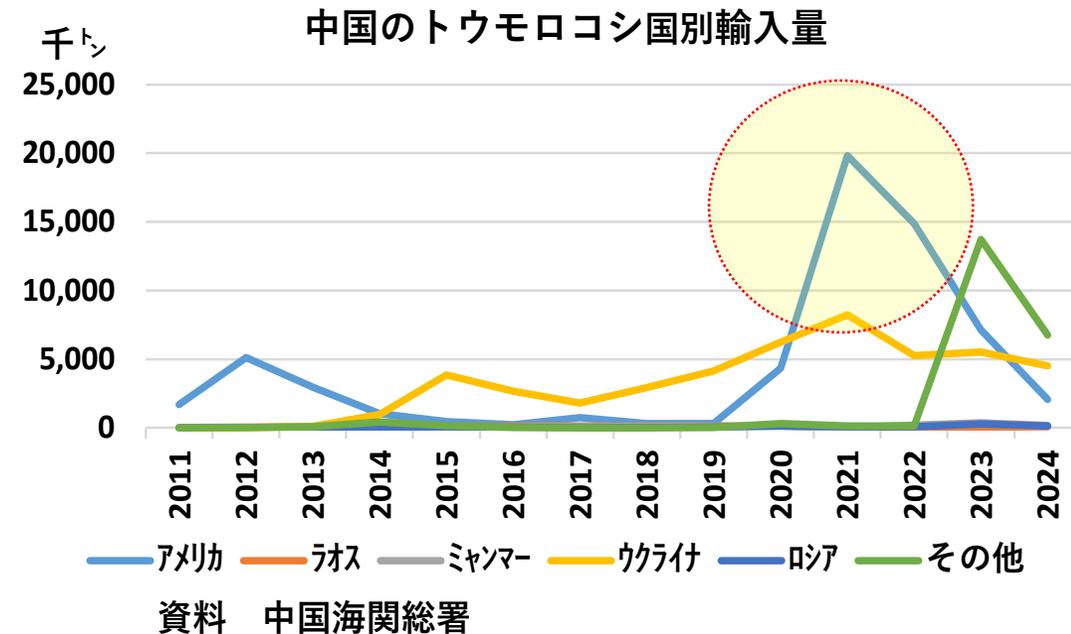
- ・ 2018年、第1次トランプ政権期間、米中貿易摩擦勃発
  - 米国は、約2500億ドルの中国製品に対して10～25%の関税を実施
  - 中国は、約1100億ドルの農産品、エネルギー、自動車等に5～25%関税  
農産品：大豆、豚肉、綿花
- ・ 1年半以上の交渉結果、2020年1月に第1段階の合意達成
  - ①米中双方で関税の部分的引下げ
  - ② 中国の対米輸入額は2020～21年の2年間で2017年比2000億ドル以上増加  
うち農産物（400～500億ドル）
  - ③金融市場の開放
  - ④為替操作の禁止
  - ⑤知的財産権保護の強化

- ・ 2020～21年、対米輸入の一時増加 前年比で
  - 大豆 2020年52.1%、2021年24.8%、 - 高粱 2020年6倍、2021年53.8%
  - トウモロコシ 2020年13.7倍に、2021年4.6倍に
- トウモロコシ在庫は2020と21年の2年間で860万ト増加

- ・ しかし、米中第1段階合意内容の②は未達成で終了
  - 全体の達成度は57%、うち農産物は約60%
  - 達成はもともと困難：

2017年の対米輸入額1539億ドル

米国の半導体等先端技術や製品等の対中禁輸  
 コロナによる物流・経済停滞の影響



2025年1月、トランプ大統領の復帰で、1期目の米中関税戦争が再燃、より先鋭化

- ・ 5月12日ジュネーブで米中共同声明「**関税90日間停戦**」（5/14から実施）

米国 145%→ 30%（フェンタニル関連関税20%+基本関税10%）

中国 125%→ **10%**

双方とも引き下げた115%のうち24%は、撤廃ではなく90日間停止

- ・ 中国の米フェンタニル関税への対抗措置（税委会公告2025年第1と2号）は維持第2号（3月10日から実施）

- 鶏肉、小麦、トウモロコシ、綿花等 **15%**

- 高粱、大豆、豚肉、牛肉、水産物、果物、野菜、乳製品等 **10%**

- ・ 関税停戦90日間の税率（5月14日から）

- **大豆と高粱23%、トウモロコシと小麦26%（関税割当枠内）、豚・牛肉32%、綿花26%**

→こうした税率では米国からの輸入は事実上困難に

# 米中関税戦争2.0は税率と対象を大きく拡大

## 関税交渉は90日間の猶予で合意達成は困難

貿易赤字やフェンタニル、金融市場、為替、産業補助金などの他に船舶問題も

### ・ 2025年4月17日のUSTR発表

中国籍や中国で建造された船舶が米国港湾に寄港する際に手数料を徴収

2025年10月から、1回当たり最大150万ドル（約2億円）

入港料は1航海当たり1回のみ適用され、年間では最高6回まで適用される

### ・ 世界造船市場での中国の支配的地位を弱め、米国の造船能力を回復する狙い

- ・ 世界の商船の造船能力（2024年、総トン数）は、中国が53.3%、韓国が29.1%、日本が13.1%、米国は0.1%

### — 造船業の米中競争に関する報告書

“Ship Wars: Confronting China’s Dual-Use Shipbuilding Empire”

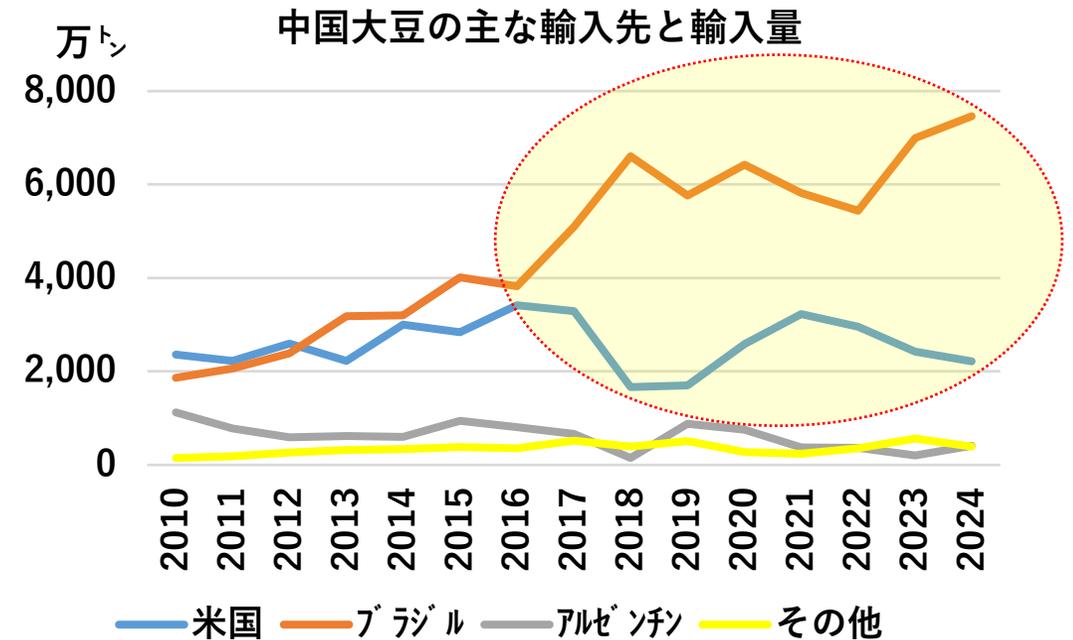
米戦略国際問題研究所（CSIS）の2025年3月11日

- ・ 第1段階貿易合意の達成は1年半以上かかった

2018年の第1段階の貿易対立で、中国は輸入先を米国からブラジルなど南米へシフト

- ・ 2018年に中国の大豆輸入先は劇的な転換
- 米国：1664万トと前年比49.3%減      ブラジル：6608万トと前年比29.8%増  
→対米依存は前年の34.4%から18.9%に急減、ブラジル依存度は75.1%へ上昇
- 2024年にブラジルから7465万トを輸入、米国からの輸入量2213万トの3.4倍に

- ・ **中国がブラジルを世界最大の大豆輸出国へ**
- ・ **ブラジルの供給拡大で、宙に浮く米国大豆**  
→中国は大豆を対米交渉材料にするが、  
“ブラジルファースト”は変えない可能性
- 長期の食料安全保障とBRICS連携が背景に



資料 FAO、中国海関総署

米中第1段階貿易合意（2020～21年）後も中国の輸入先多様化は継続

- ・ 2023年にブラジルや南アからトウモロコシの輸入を開始

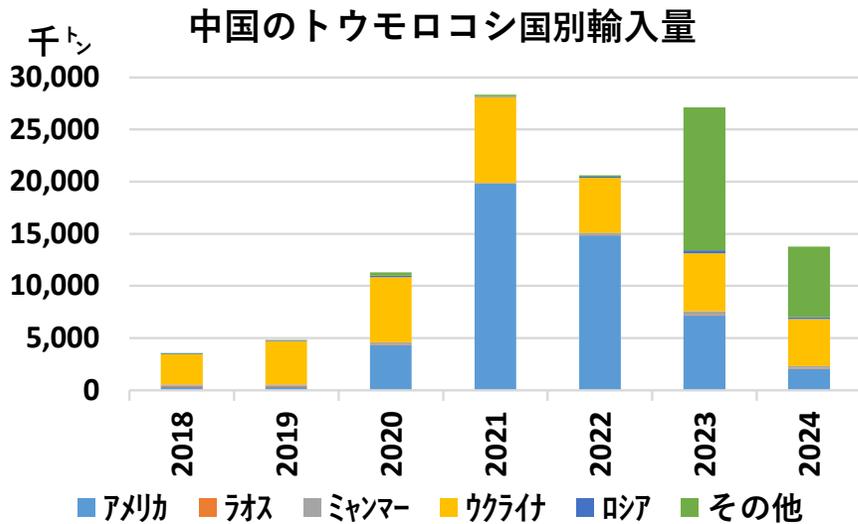
→ ブラジルから輸入量の47.8%にあたる1298万トンを輸入

米国は2位に転落、24年にはさらにシェア低下

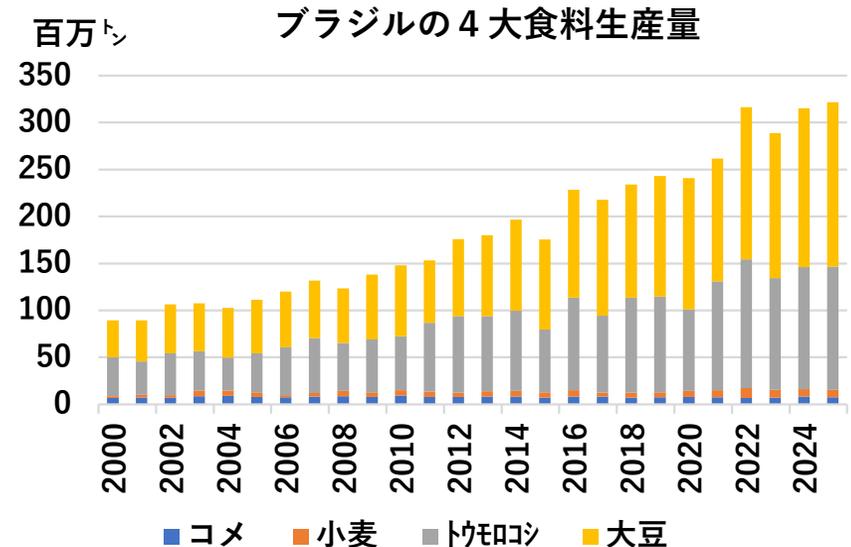
- ・ ブラジルはトランプ第1期政権以降、食料生産が急拡大

→ 対中輸出によってブラジル農業は高成長モードに

- 2017～2024年間の生産量伸び率：トウモロコシ58.5%、大豆37.0%



資料 中国海関総署



資料 USDA

米中ジュネーブ合意後の「90日間における全面解決」は困難な状況

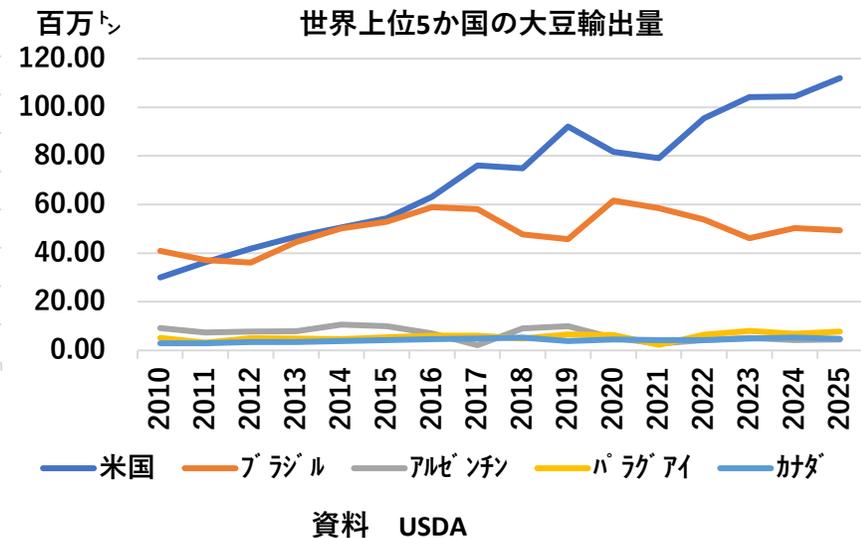
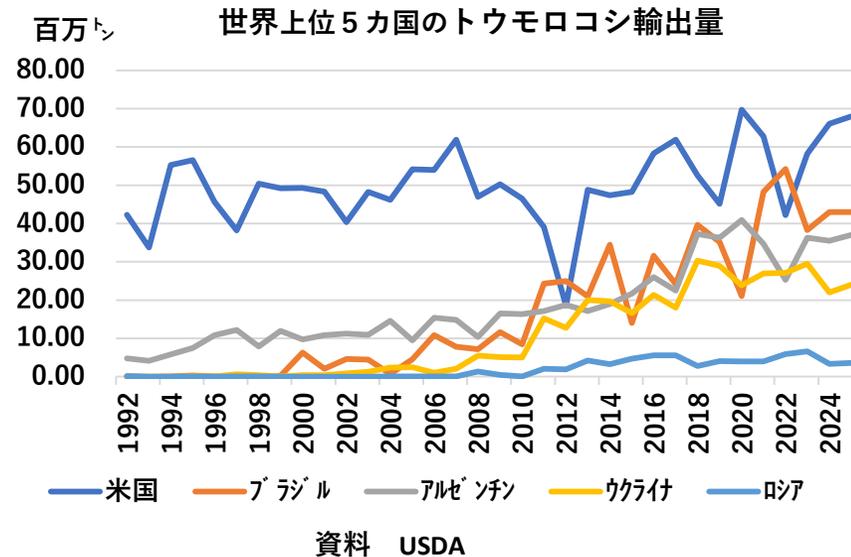
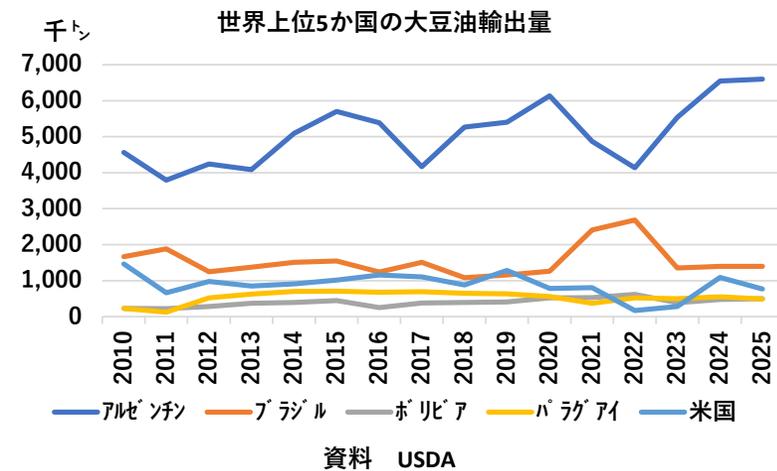
中国は将来の混乱や不確実性に備えて、南米・中米からの食料調達を強化

- ・ 2025年5月7日、アルゼンチンと約9億ドル相当の食料購入契約を締結

→大豆、トウモロコシ、植物油が主な対象

-アルゼンチンは世界最大の大豆油輸出国、第3位のトウモロコシ輸出国

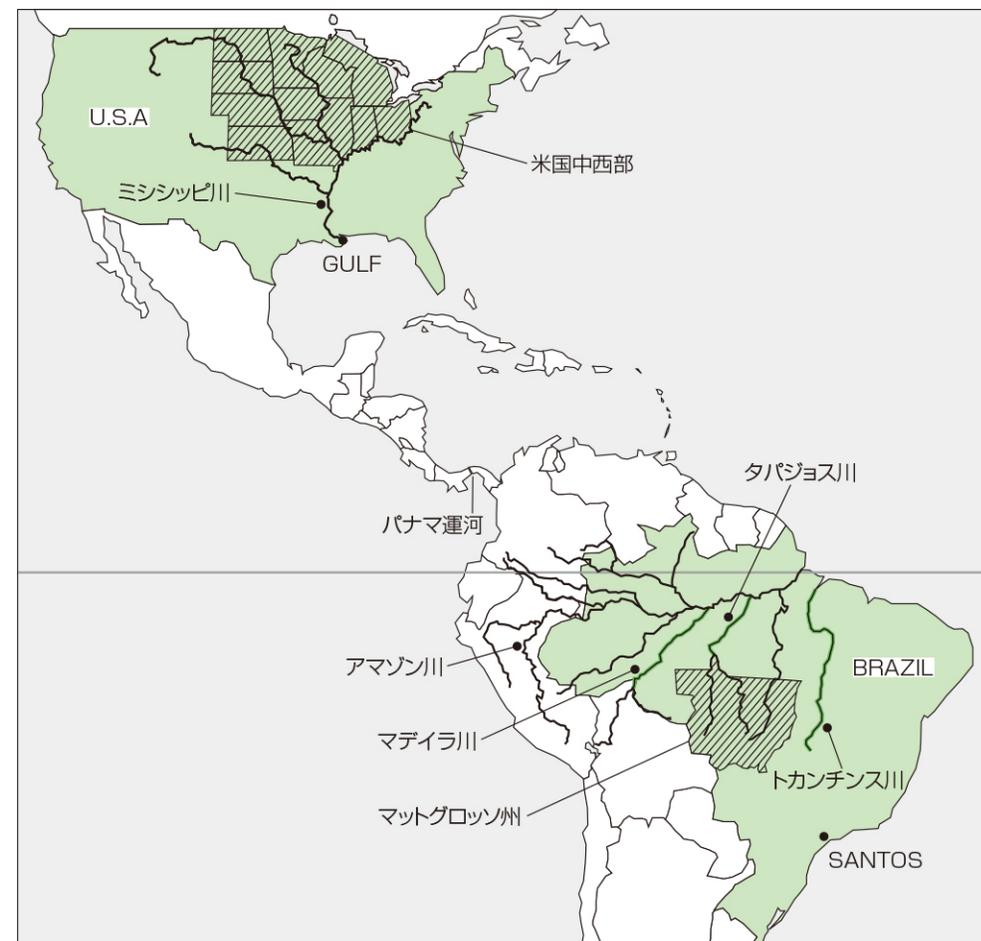
- ・ 2025年、大豆の輸出量では前年比ブラジルは7.2%増、米国は1.9%減とUSDA予測



ブラジル大豆の最大産地 マットグロソン州 約90万3208km<sup>2</sup> (9032万ha)

- 米国大豆産地の中西部に近い面積  
日本の国土の約2.4個分
- 現在使用中の耕地 約1400万haとわずか15%  
牧草地 約2000万ha、22%  
開拓せず保護地 約62%
- 降水量が豊富で年間を通じ温暖→二毛作も
- 牧草地から耕地への転用が可能  
→中国需要に応じた多様な農産物の増産余力

第5図 ブラジルマットグロソン州と米国中西部の位置づけ



・資料 阮蔚「アマゾン川の物流開発で穀物の輸出競争力を高めるブラジル」 『農林金融』 16年9月号

資料 Esri Data & Maps for ArcGIS Desktop 10.4 (DeLorme, ArcWorld)を基に作成  
(注) ホモロサイン図法。

## 開拓余地の高いマットグロッセ



・ 2016年 筆者撮影

## <大豆>

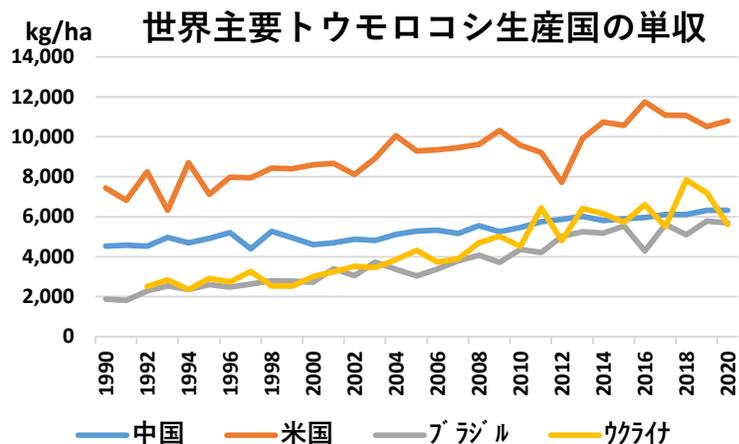
ブラジルの単収は米国中西部並みに高く、中国より約4割も高い

- 生産コストは米国中西部より低い
- 大豆生産者の手取りが多いため  
→ 肥料や農薬等の投入も惜しまない

## <トウモロコシ>

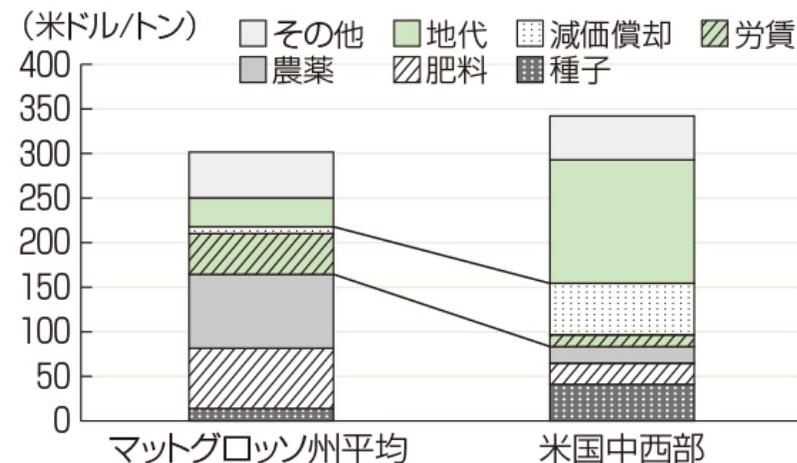
ブラジルの単収は低く、物流コストが高い

→ 生産者の手取りが低い



資料 FAO

第6図 ブラジルマットグロッソ州と米国中西部の大豆生産コストの比較(2015年)



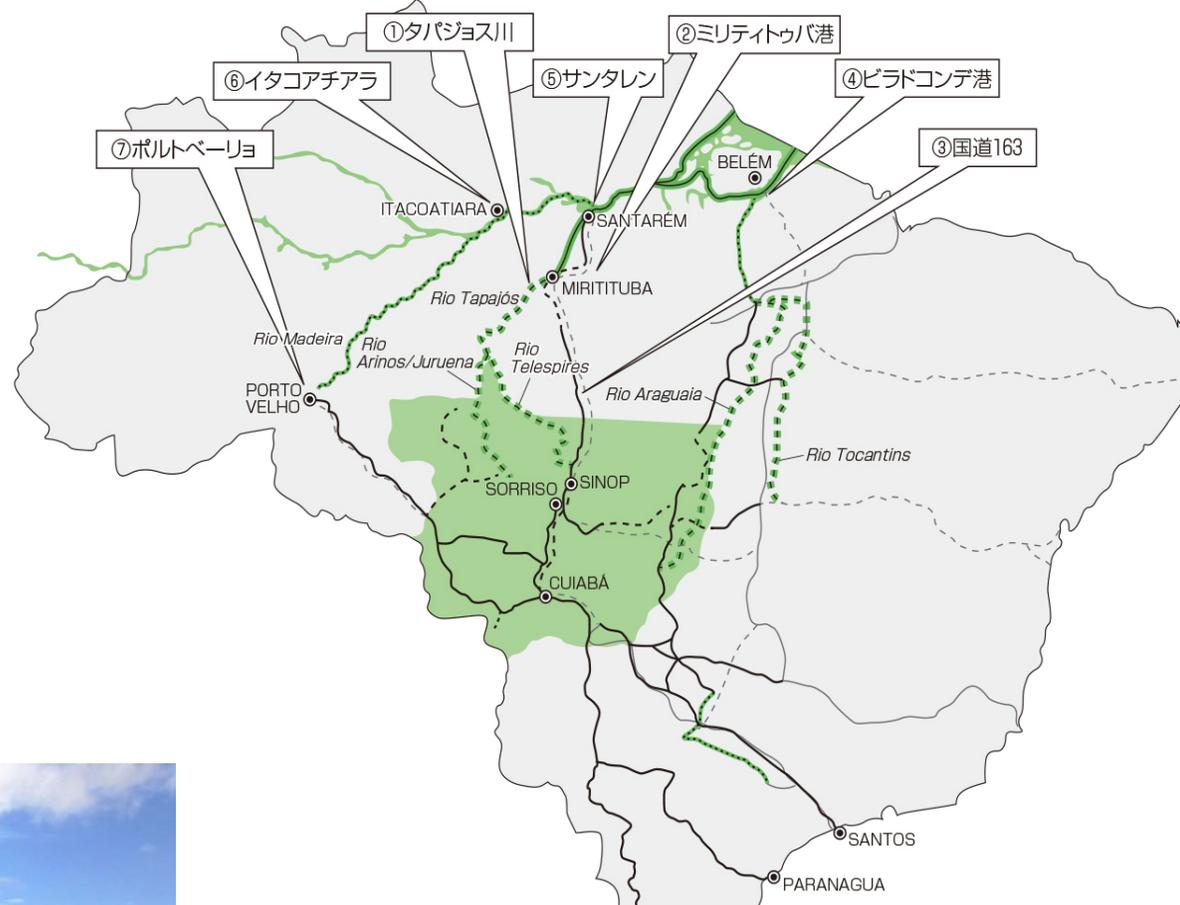
資料 ブラジルマットグロッソ経済研究所 (IMEA), USDA ERS

- (注) 1 米国中西部はUSDA ERSのHeartlandのデータを使う。  
 2 両者とも面積のコスト(米ドル/ha)から単収で換算した重量のコスト(米ドル/トン)となる。単収はマットグロッソ3.13トン/ha, 米国中西部は3.5トン/ha。  
 3 地代は機会コストを含む。  
 4 両者とも自家労賃と雇い労賃を含む。マットグロッソの労賃はLaborとoperation machineの合計。

・資料 阮蔚「アマゾン川の物流開発で穀物の輸出競争力を高めるブラジル」 『農林金融』 16年9月号

- ・アマゾン川の物流開発
  - 2010年代初頭までマットグロッセの大豆の約9割はトラックで1000~2000キロ離れたサントスなど南部港へ
  - 国道163号線の舗装とアマゾン水系の物流開発でマットグロッセの大豆輸出の約30~40%は北部港へ
    - 輸送コストの引下げへ
- ・米国ミシシッピ川水路による輸送は約6割

第10図 アマゾン川水系の穀物輸送システム



中国・中南米カリブ海諸国共同体（CELAC）フォーラム第4回閣僚会議が北京で開催

2025年5月13日「北京宣言」採択、南米・中米と多国間協力の強化

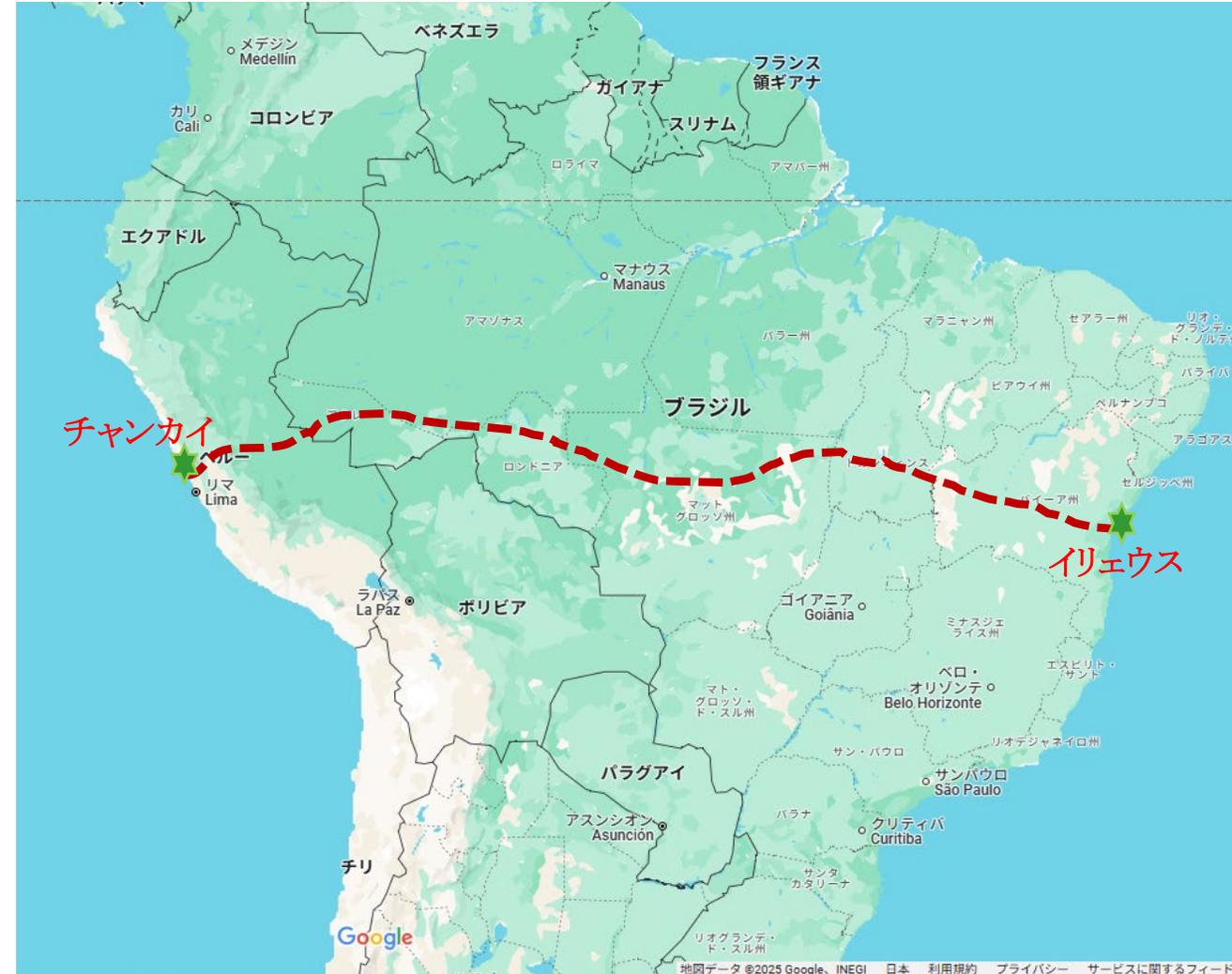
## ・南米大陸横断鉄道の本格協議

（Corredor Bioceânico）

- ・ ブラジル東部のバイーア州イリエウスとペルー西部のチャンカイ港を結ぶ全長およそ5000km鉄道
- ブラジルからアジアへの輸送時間はパナマ運河や喜望峰回りより10日間短縮
- チャンカイ港は中国が約6割出資し、2024年にすでに開業
- ブラジル年間輸出額約3500億ドルの1/3以上は中国向け、ブラジル国内輸送の約65%はトラック輸送

→パナマ運河のバイパス効果

## 南米「双洋鉄道」イメージ図



### 3、中国の食料増産と飼料効率の向上

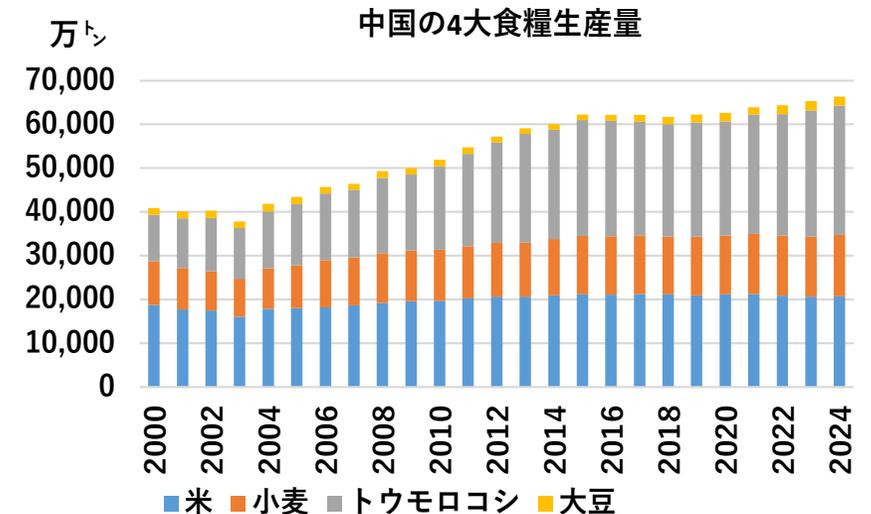
- 中国の食料安全保障の基本方針
  - 主食穀物の絶対的自給と飼料穀物の基本的自給
  - 食肉生産の国産率は引き上げ、**飼料原料(大豆やトウモロコシ)は輸入依存**
- 各種増産措置の実施 生産者所得補償、圃場など整備、スマート農業…
- GMO等によるトウモロコシと大豆の単収増
 

トウモロコシの単収は米国より約4割、大豆は米国とブラジルより約4割低い

2024年3月までに64のGMOトウモロコシと17のGMO大豆の品種が承認

2024年から3年間かけて 全国8つの省で大規模な試験栽培

- 2018～2024年の4大食料生産量
  - 中国 7.5%増
    - うち大豆29.3%増、トウモロコシ14.7%増
  - 世界 9.8%増
    - うち大豆16.6%増、トウモロコシ8.6%増



- ・ 畜産業飼料節約行動実施方案 農業農村部2025年4月29日公表

## 2030年向けの対策と目標

### 1、飼料効率向上

- 家畜の品種改良による飼料要求率の向上
- 適度な規模拡大、スマート畜産の導入による管理水準の向上

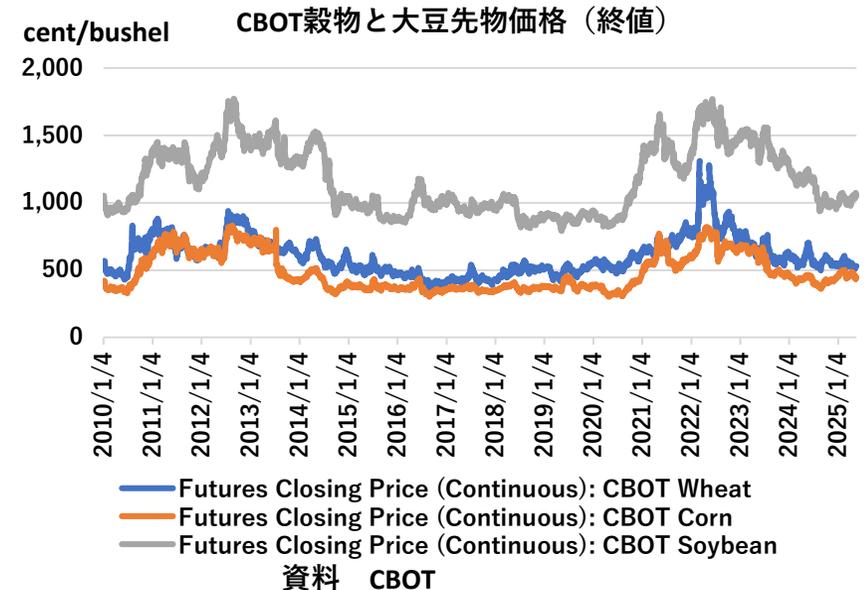
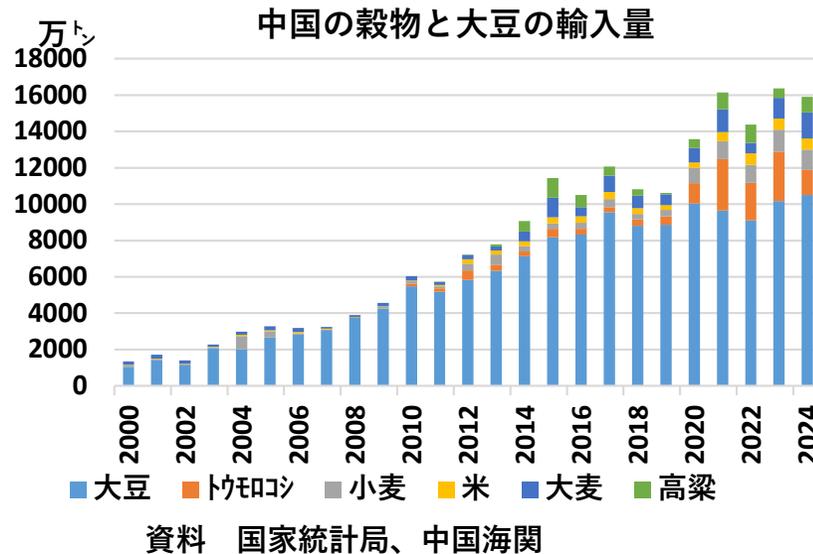
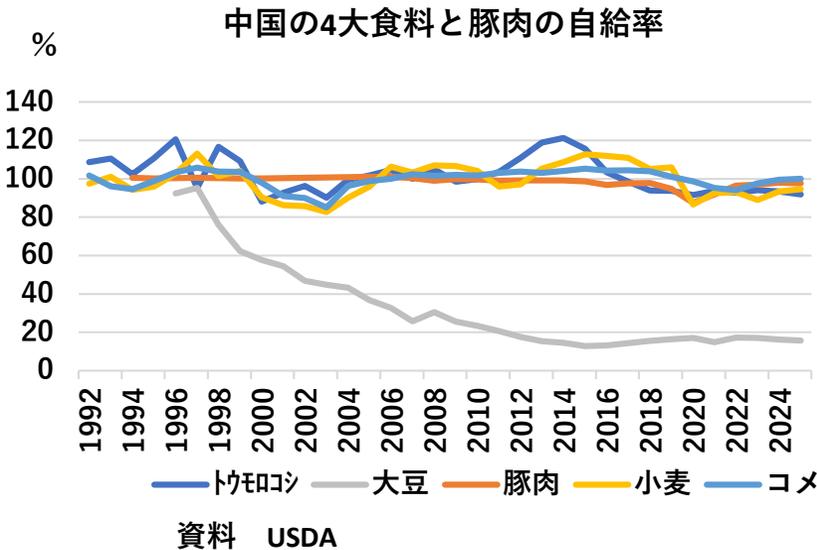
### 2、飼料節約

- 供給源拡大
  - 微生物タンパク、エコフィード（食品残渣、農業生産・食品加工等）、昆虫タンパク、動物由来タンパク等の非穀物飼料資源の開発・利用能力を**1000万トン以上へ**
  - 高品質牧草の生産量を2023年比で新たに4000万トン以上増加
  - 低タンパク質飼料の普及

全国で飼料中の**大豆粕の使用割合を約10%に低減**

= 2000万トンの大豆粕の節約に相当

- 中国、穀物の高い自給率の維持 4大食料生産量は2024年に約6億ト
- 主食のコメと小麦は約100%の自給率、トウモロコシと豚肉も90%以上の自給率
- 中国の食料輸入量は当分ピークアウト
- 同時に、4大食料輸入量は2024年に約1.4億ト、当分維持
- 約1億トの輸入大豆、国内農産物作付面積の約3割に相当
- 南米などの増産もあり、豊富な生産量などにより、シカゴ相場は安定



①関税など米中対立は長期化する可能性が高い

- ・・・5月ジュネーブ合意は金融市場の混乱終息のため米中が一致

②中国は「脱米国・入南米」の食料安保の基本戦略を今後も持続

- ・・・米国からの食料輸入拡大は一時的な交渉カード

- 大豆において、ブラジルを米国に代わる世界最大の輸出国に

- トウモロコシも今後大豆と同様に南米の大増産の可能性

③中国は国内の食料増産を加速

- 環境問題や生産コスト、財政赤字よりも安全保障重視

④米国は販路失う大豆、トウモロコシ、小麦などを中国以外に輸出攻勢

- 日本に輸入拡大の圧力、欧州・中東・アフリカ市場にも

- 米国内ではトウモロコシ、大豆をバイオ燃料原料として利用拡大の可能性

- ・・・国内の油田・ガス田開発加速の政策と矛盾の恐れも

THANK YOU!